

旧第2通学区の高校の将来像を考える協議会 第1回分科会（中野・山ノ内地区） 会議録（概要）

期日：令和元年8月26日（月）

時間：午後3時15分～午後5時15分

場所：中野市役所会議室 42.43

1 開 会

中野・山ノ内地区関係委員14人（重複1人含む）中、欠席：望月隆委員、藤澤幸雄委員

2 議 事

副会長：

将来の子供たちのために、また、地域のために、高校の在り方を考えていくことが重要です。

本日は、同窓会関係者から意見を伺います。色々とお聞きいただきたいと思えます。委員の皆様には、様々な機会を捉えて、できるだけ多くの住民の皆様のご意見をお聴きいただきたいと思えます。

なお、本日の会議は非公開とさせていただきます。

(1) 高等学校関係者からの意見聴取

① 中野立志館高等学校

- ・中野立志館高校は、普通科の「中野高校」と「中野実業高等学校」を統合・再編し、総合学科として「中野立志館高校」になりました。総合学科の特色は、生徒が多様な進路を選択して、その目標に向かって学べ、進路が大学、短大、専門学校への進学及び就職の多岐にわたっています。
- ・総合学科として地域の人材育成にも力をいれています。
- ・第2通学区の高校生が減っていくのは現実の問題だと思えます。第2通学区での高校生のあるべき姿というのはどうあるべきか、というのが議論になると思いますが主役は中学生です。子供たちの期待に応えられるような高校であるべきだと思えます。
- ・他の普通高校との違いは、入学してすぐに進路を決定するわけではなく、

1年ないし半年かけながら、もっと言うと2年間3年間かけながら、様々なカリキュラムを組み、試しながら自分の進路をより確実なものにしていけることが特徴。

- ・当校の総合学科の中身は、県内にいくつかある他の総合学科とベースとなった部分が違って、中野実業高校がベースのため、工業科、商業科があり、県下でもこれだけ沢山のカリキュラムをおける学校はないと思います。
- ・専門高校では、入学時の専攻科を途中で変更できないことから、自分に合わないときは、辞めてしまう場合があるが、当校は、生徒の希望を叶えられるような形でカリキュラムを組めるため、進路も色々選択できることが、ものすごく大きなメリットです。

② 中野西高等学校

- ・中野西高等学校は、E S D活動（持続可能な社会づくりの担い手をはぐくむ教育）を積極的に取り組んでいます。また、開校以来、クリーンオリエンテーリングという活動を行っています。これは、ゴミを拾いながら地域を学ぶという活動ですが、それが高く評価され、ユネスコスクールに認定されました。
- ・卒業生の多くは、地域に興味を持っています。中野西高校というのは、地域との交流を大切にしてきたことによって地域とのつながりがあります。将来、中野市に限らず自分の住んでいるところに関心を持ち、それに向かって将来の夢につなげていけるという生徒が多く出る学校だと思っています。
- ・地域に根差した活動や探究する学びというのが既に実践されて着々と根付いている学校です。
- ・10年後、高校1校分の子供たちが減る中で、うちの高校だけ残してほしいというのは厳しい現実であることは重々承知していますし、当然学校というのは維持経費等、お金がかかります。県の方針もあり、我々同窓会で解決する問題ではありません。開校から30年そこそこですが、しっかり地域に根差してきていますし、着々と子供たちも本当に立派なかたちで卒業していつてくれる姿をみまして、個人的には、ぜひ中野には2校という思いが、第一にあります。
- ・同窓生がどうこう言うより、いちばん大切なのは子供たちが勉強する場、より良い環境を整えていくというのが、当然行政的な目からも、大人の目からもしていかなくてはならないことです。

(2) 分科会協議

① 意見聴取内容の確認 ② 意見交換

- ・ 2校とも学校の特色、人材育成の方向性が違うのがいい。同じ方向性であれば1校でいいが、違った方向性で子供の可能性を伸ばそうと取り組んでいるので、2校ともないと、この地域は発展していかないのではないかと感じました。
- ・ 立志館は、スキーでかなり優秀な成績をおさめている。西高は社会に積極的な関わっている。お互いの特徴を生かせば、旧第2通学区以外からも来てもらえるような高校、そして2校とも残れるような学校になれるのではないかと考えております。
- ・ 立志館については実業系に特化し、西高は普通高の2校存続を考えましたが、今日の立志館の意見を聞く中で、在学中に自分の将来について考えていくというのが総合学科のひとつの特徴だということで、もう一回考えてまた意見を聞いてみたいなと思いました。
- ・ 県から、高校改革実施方針の一つに、多様な学びの場を全県に適切に配置するとあり、その中に総合学科高校を、4通学区を基本に配置と。いずれにせよ東西南北に配置をするのでは。普通高校については旧12通学区を基本に配置すると、大まかに記載があります。原点に立ち返ると、生徒にとってこの地で必要な学び、どういう場を提供しなければならないのか、大変難しいところではあるが、考えていきたい。
- ・ 学校の存続問題は、簡単に足して2で割るとかにはならないと思いますけれども、そういったことを県教委のみなさんも十分把握していると思います。そこら辺も含めて、是非地域の思い、子供たちの将来への思い、環境を十分加味しながら、地域の思いを十分反映して頂ければありがたいなと思います。
- ・ 旧第2通学区でどういう教育の場があればいいのか生徒たち子供たちにとってどういう高校が望ましいのかという、その辺のことをまたご意見頂ければと思っております。
- ・ 中野西高校も立志館高校も地域に信頼される、学校であってほしいと強く思っています。あとは多様な学びの場というのを、そういう環境をしっかりと整えてあげなければならないと思っています。
- ・ 地域のみなさんと一緒に支えていかないと地域が成り立たないというところでは、やっぱり小、中、高、小さい時からこういった取り組みや教育が

- 大変重要になってくると考えております。今日話を聞いて、非常に強く思って、これからもそれは大事にしていっていただきたいなと思いました。
- ・中野市は魅力あるスポーツに力を入れて頂いて、もっと活発に、中野市はスポーツが強いというようなところがあれば、もっと魅力的な中野市の高校になると思いました。
 - ・10年後とかの子供の数は絶対数なので、今の高校数は無理なことだと思っています。中野市に戻ってきたいという子が増えるよう、両校の良いところをフル活動させて頂いて、良い高校をつくって頂きたいと思います。
 - ・高校は、規模が特徴を作っているという気がしています。2つの高校の存続とありましたが、この地域が閉じた感じになっているとすると、普通高校と実業高校が一緒になり特色を出していくのがいいのでは。立志館の取り組みが、これからの考える教育に合致しているのかなと思いました。
 - ・2校の特徴に関して、単純に体系だけで〇〇高校、△△高校ではなくて、そこで取り組んでいる中身が、非常に特徴があったということを感じました。希望というよりも、ひょっとしたら高校教育の中身、質というものをこれから地域というキーワードになぞられて、考えていく必要があるのかなと思いました。
 - ・高校も大学のように、年齢にこだわらず、社会人が学べる場所としてもありえるかなと思いました。
 - ・現在、中野立志館高校が6クラス、中野西高校が5クラスありますが、少子化の今、今後クラス数が増えることはありません。また、委員からは高校教育の質を考える必要があるのではないかというご意見もいただきました。
- 委員の皆さんにどこの学校をどのようにしていくという意見を出していただければ、良いのですが、そこまではなかなか重いと思います。最終的には、県の方で具体的な部分については、再整備計画の中に盛り込んでいきます。

3 閉 会